基地全面返還は市民の願い

市長インタビュー

粘り強く返還運動を続けます

●返還運動の成果にはどのようなものがありますか。

斎藤市長　米軍の所沢通信基地は、現在までに、その約７割が返還されております。これは市民の皆さんをはじめ市議会や基地対策協議会など、数多くの方々にご尽力をいただいた成果と受けとめております。

これまでに返還された場所につきましては、市民文化センターなどの文化施設、市役所をはじめとする官公庁、学校などの教育施設や公団などの住居スペースとなりました。このように基地が返還されることにより、都市機能が充実したまちづくりが可能となります。

今後も『基地全面返還は市民の願い』をスローガンに、全面返還を最終目標として引き続き粘り強い活動を行ってまいります。

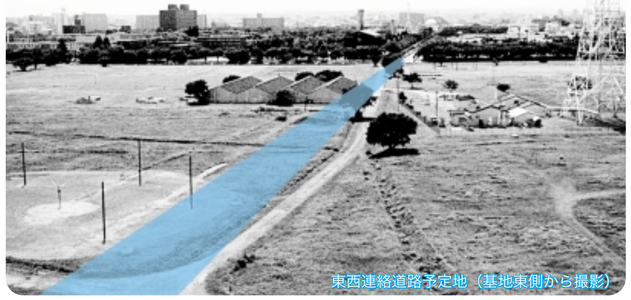
●東西連絡道路の開通の見込みはいかがですか。

市　長　市民の皆さんのご要望の高い東西連絡道路が開通することで、皆さんの日常生活での利便性が向上するばかりでなく、警察・消防などの緊急車両や救急搬送にかかる時間が短縮され、安全性もより向上することとなります。

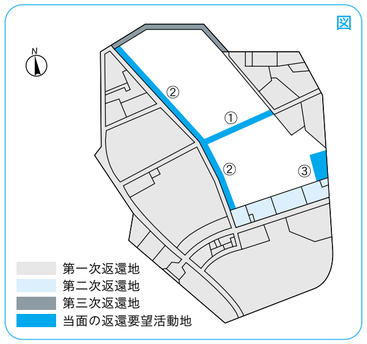
今回、返還要請書を正式に提出しましたことは、昭和57年の第３次返還以来24年間動きの無かったことを考えますと、返還にむけての大きな前進であると確信しております。

今後、返還が実現され道路が開通するまでは、日米間の協議など、まだまだ長い時間がかかるのではないかと思われます。各方面からのご支援・ご協力をいただき、東西連絡道路の実現にむけて、一層の努力をしていきたいと考えております。

皆さんのご理解とご協力をお願いします。



東西連絡道路予定地（基地東側から撮影）



▲上空から見た米軍所沢通信基地

米軍所沢通信基地97万㎡の返還にむけて

所沢市の市街地中央部に97万㎡もの広大な面積を占める「所沢通信基地」という米軍の施設があるのをご存知ですか。

今回は、この基地の概要と、今まで取り組んできた基地返還運動の歩み、および今後の展望についてお知らせします。

※問い合わせ　政策企画課基地対策室（☎2998-9033・FAX2994-0706）

米軍所沢通信基地の概要

所沢通信基地は、米空軍の基地である横田基地（福生市など５市１町に所在）の第５空軍第374空輸航空団に所属する通信基地で、横田基地と米軍航空機とを結ぶ通信業務を行っています。

主な施設としては、横田基地および大和田通信所（新座市と清瀬市に所在）との通信用のマイクロウェーブ鉄塔が１基、米軍航空機との通信用アンテナが23基、倉庫などがあります。

近年の返還運動

市、市議会、基地対策協議会の三者で連携を図りながら基地の全面返還を目指し、さまざまな活動を続けています。

しかし、昭和57年の第３次返還以降、基地返還の具体的な動きはありません。

近年の返還運動では、次の３点について部分返還と部分解放を要望しています。

■東西連絡道路用地（図の①）

基地が南北に広がっているため、東西への行き来には、大きくう回をしなければなりません。

そのため、基地の東西を結ぶ道路についての建設用地の返還を昭和51年から要望しています。

■文教通り線（はばたき通り）拡幅用地（図の②）

基地西側を南北に通る文教通り線の道路拡幅用地の返還を、昭和51年から要望しています。

■日米共同使用スポーツ広場用地（図の③）

この要望については、昭和54年に立案したもので、当時、市内の体育・運動施設の整備が人口規模に対して遅れていたため、基地の空閑地と思われる南東部の一部をスポーツ広場として解放することを要望しました。

スポーツ人口は現在でも増加していることから、運動施設を充実させるためスポーツ広場用地として解放要望を続けています。

今後の返還運動の展望

基地が市街地中央の南北に長く位置しているため、一般通行はもとより、救急搬送、警察、消防などの緊急車両も、う回を余儀なくされるなど、さまざまな影響があります。このため現在は、市民要望の高い東西連絡道路（幅員16ｍ・延長580ｍを予定）の建設用地返還を中心に運動を進めています。この結果、平成15年から３か年事業として、国（東京防衛施設局）により東西連絡道路建設に係る調査が実施されました。

また、本年４月20日に、東京防衛施設局長および財務大臣あてに東西連絡道路用地の返還要請書を提出しました。

現時点では、この要請書をもとに東京防衛施設局が在日米軍横田基地に対して意向確認をしており、横田基地（米空軍第374空輸航空団）から回答が得られた後、日米合同委員会施設特別委員会に諮られる模様です。

＊　＊　＊

米軍所沢通信基地は、今までに３回返還がありました（年表参照）。これは、永年にわたり粘り強く返還運動を続けてきた市民、市議会など皆さんの努力のおかげです。

しかし、未だに97万㎡という土地が返還されていません。市の中央部に米軍基地があるということは、市のまちづくりを進めるうえでも支障となることから、全面返還が望まれます。

米軍基地の全面返還には、難しい要素が山積していますが、市民の皆さんの安全で安心な生活と利便性を確保し、次世代へ課題を残さないためにも、一日も早く全面返還を実現する必要があります。

これからも粘り強く、返還運動を続けていきます。

皆さんのご協力をお願いします。

■年表　米軍所沢通信基地返還の歩み

明治44年（1911年）	日本で最初の飛行場として、所沢飛行場が開設される（敷地面積約76・3㏊）。
昭和8年（1933年）	飛行場敷地を245・3㏊に拡大する。
昭和15年（1940年）	飛行場敷地を365・3㏊に拡大する。
昭和16年（1941年）	第二次世界大戦が始まる。
昭和20年（1945年）	第二次世界大戦が終結する。旧陸軍の管轄であった所沢飛行場は、米軍に接収される（300・8㏊）。
昭和36年（1961年）	市議会で基地返還要求が決議され、併せて基地対策特別委員会が設置される。
昭和42年（1967年）	市、市議会、各団体による市民大行進が行われる。
昭和43年（1968年）	市、市議会、市内各界の代表からなる所沢市基地対策協議会が発足する。
昭和46年（1971年）	**第１次返還として、それまでの基地の約60％の敷地に該当する約191・88㏊が返還される（現在の市役所や航空記念公園などがある並木１丁目から８丁目（６丁目を除く）に該当）。**
昭和53年（1978年）	**第２次返還として、現在の基地南側の並木小学校や中央中学校などがある並木６丁目の一部（約9・75㏊）が返還される。**
昭和57年（1982年）	**第３次返還として、基地北側の道路拡幅用地（約1・35㏊）が返還され、それまでの一方通行から２車線の対面通行が可能な道路となる。**
平成４年（1992年）	市長、市議会基地対策特別委員長、協議会会長が横田基地を訪れ、第374空輸航空団司令官に対して返還要望をする。
平成６年（1994年）	所沢基地返還運動推進大会が市民文化センターで基地対策協議会の主催により開催される。
平成８年（1996年）	市長、市議会議長、協議会会長が米国国務省を訪れ、国務長官へ返還を要望する。
平成18年（2006年）	市長、市議会議長、協議会会長が東京防衛施設局長と財務大臣に対し、東西連絡道路用地の返還を要請する。

所沢市の発展のために

加藤侃子（なおこ）さん
（久米在住）

私は、所沢市基地対策協議会委員として返還運動に参加しています。

あのような広い土地が返還され、私たちのまちの一部になれば、所沢市はもっと発展するのではないかと思います。

この大きな基地の存在を知らない市民の方もいるかもしれません。一人でも多くの方に基地があること、それによってまちづくりが阻害されていることを知っていただき、次世代のためにも基地の全面返還が実現することを望みます。

１日も早い全面返還を

松本元伸さん
（中新井在住）

私は、現在所沢通信基地の北側に住んでいるため、出かけるときは通信基地をう回しなければなりません。

この度、正式に東西連絡道路用地の返還要請書を提出したとのことであり、この道路が開通すれば、公共施設へのアクセスや買い物なども本当に便利になると思います。

さらに近隣の交通渋滞の緩和にもつながると思われ、住みよいまちとなるのではないでしょうか。

東西連絡道路の開通とともに、一日も早い基地の全面返還を望みます。

平和推進事業のごあんない

基地対策室では、将来にわたって平和な社会を築くために、平和に関する啓発活動を行っています。

●広島市平和祈念式典参加事業

広島市では、毎年８月６日に「広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式」を開催しています。この祈念式典へ、所沢市民代表として参加を希望する方に出席していただきます。

●平和祈念資料展

戦争の悲惨さ・平和の尊さを伝えるために、写真展などを開催しています。今年は、８月11日(㈮)から18日(㈮)までの間、市役所１階市民ホールにて開催します。

●平和を語る「語りべ」派遣事業

被爆・戦争体験者の方に、平和についての講話をしていただきます。（公民館、希望する小・中学校等で開催）

出版物頒布のごあんない

所沢市基地対策協議会では、今までの返還活動や所沢通信基地の概要をまとめた記念誌を出版しています。

- 『基地返還を求めて』（平成元年発行）……1,500円
- 『続・基地返還を求めて』（平成11年発行）…1,000円

頒布場所　市役所１階・市政情報センター